

随想

アメリカのHPAIについて

過剰な先進化は仇になる可能性を秘める

(株)PPQC研究所 加藤 宏光

アメリカの養鶏産業は今、HPAI発生で大変なことになっている。六月八日付のインターネット情報によれば処分(対象を含む)家禽の総数は四、八〇〇万羽を超える。

七月九日から十日にかけて、二本松市岳温泉で開催される(この号の発行時点では過去になるが…)第一一回日本養鶏産業研究会の継続テーマが鳥インフルエンザであり、アメリカにおける発生が全体の一三%にも及ぶことから、セミナーのテーマとして取り上げた。

アメリカの養鶏業界にとつても、今回の大流行は晴天の霹靂ともいえる事態であるらしい。混沌とした状況の解釈についての推論を紹介すると、五月初め

頃には「鳥インフルエンザウイルスに汚染された野生の水禽が渡つてきて大量の汚染糞を撒き散らした」「それをネズミや雀のような小動物が農場へ持ち込んだ」と強く主張された。しかしこの原稿を書いている六月末時点では、バイオセキユリティに欠陥があったのではないかという論調が増えている。

アメリカでは何度かHPAIが発生し、一、〇〇〇万羽以上を殺処分したこともある。一九八三年にペンシルバニア州に始まってバージニア州にまで及んだH7N2亜型の事例では一、七〇〇万羽以上の家禽が処分された。当初HPAIであったが、約半年で致死率八〇〜九〇%の強毒型に変異した。対策に六、

六〇〇万羽^ドで全殺処分と防疫ワクチネーションを実施し、二年で発生を見なくなった。

しかし一九九三年頃、同じくペンシルバニア州で社会問題となった、卵のサルモネラ・エントリティデイス汚染への対策でHACCPタイププロジェクト

を立ち上げ、州、大学および業界が一体となってバイオセキユリティをシステム化させたことで、AIへの対応にも相当度の自負があったと思う。当時親しかった州のサルモネラおよびAI管理獣医師のデッド・ヘンツラー博士と毎年のようにアメリカで出会い、農場を訪問し、ラポで語り合ったが、その折にモニタリングから汚染家禽群の自主的淘汰等のきめ細かい対応

に相当自信を持っていることが感じられたからである。

今年はじめにミネソタ州の七面鳥農場でH5N2亜型HPAI発生が伝えられた時にも、著者の私見としては、さほど危機的に捉えることはなかった。

アイオワ州における四〇〇万羽の超大規模採卵農場での発生(四月十九日)に至るまで、発生頻度の多さから異常性を感じられるものの、日本での危機感はそれほど高くはなかった。しかし六月十五日時点での総発生数は四、八〇〇万羽以上と、とてつもない数字に膨れ上がっている。インターネットで検索できる五月四日時点での各州の発生羽数は以下のとおり。

●アイオワ州：発生件数七四件、

総数三、〇七二万三、三〇〇羽

★六月三日：採卵大雛一一一萬五、七〇〇羽★六月一日：採卵大雛四三萬四、八〇〇羽★五月二十八日：採卵鶏九九萬一、五〇〇羽★五月二十日：採卵鶏一四萬九、一〇〇羽★五月十五日：採卵大雛二七萬二、三〇〇羽・採卵鶏二四萬羽・採卵大雛一〇萬羽・採卵大雛九〇萬三、七〇〇羽★五月十四日：採卵鶏三九萬羽★五月十二日：採卵大雛九六萬六、六〇〇羽★五月八日：採卵鶏一一〇萬六、五〇〇羽・採卵鶏五八萬一、三〇〇羽・採卵大雛三二萬七、九〇〇羽・採卵大雛三〇萬三、一〇〇羽★五月七日：採卵鶏八萬一、〇〇〇羽・採卵鶏三〇萬九、九〇〇羽・採卵鶏一八萬二、三〇〇羽・採卵大雛二五萬六、〇〇〇羽★五月五日：採卵鶏二八二萬一、八〇〇羽・採卵鶏一六萬二、〇〇〇羽★五月四日：採卵鶏一四九萬五、六〇〇羽・採卵鶏一六萬五、二〇〇羽★五月一日：採卵種鶏一萬八、八〇〇羽・採卵鶏四九一萬六〇〇羽★四月三十日：採卵

鶏四萬八〇〇羽★四月二十八

日：採卵鶏三六六萬羽・採卵大雛二五萬八、〇〇〇羽・採卵鶏九萬八、〇〇〇羽・採卵鶏三萬六、八〇〇羽★四月二十七日：採卵鶏一六〇萬三、九〇〇羽★四月十九日：採卵鶏一〇三萬羽●ミネソタ州：発生件数一〇五件、総数八九九萬六、〇五〇羽★六月四日：採卵大雛四二萬五、〇〇〇羽★五月十九日：採卵鶏二〇四萬五、六〇〇羽★五月五日：採卵鶏一一〇萬二、九〇〇羽★四月二十九日：採卵鶏二〇萬二、五〇〇羽★四月二十三日：採卵鶏四〇萬八、五〇〇羽●ネブラスカ州：発生件数四件、総数三七九萬四、一〇〇羽★五月二十六日：採卵大雛二九萬三、二〇〇羽★五月十五日：採卵鶏一七〇萬九、四〇〇羽★五月十二日：鶏（種類不明）一七九萬一、五〇〇羽 以上発生件数〇三件（総数二二〇万／三七九万羽）●サウスダコタ州：発生件数一〇件、総数一一六萬八、二〇〇羽★五月十八日：採卵鶏六四

万二、七〇〇羽

●ウィスコンシン州：発生件数一〇件、総数一九五萬七三三羽★五月六日：採卵大雛一二萬八、〇〇〇羽★四月二十四日：採卵鶏一〇三萬一、〇〇〇羽★四月十一日：採卵鶏一二萬九、一〇〇羽 以上一〇〇万羽超の発生を記録した五州について、発生事例のうち大規模農場を確認すると二〇万羽を超える農場はすべて採卵または大雛農場である。アイオワ州でのHPAI発生的大部分が液卵専用農場であるという情報に接して、今回のアメリカでの発生に違和感があった。先進的経営を実践しておられる大型採卵会社の社長と語り合った時、「液卵農場に限定していることが、今回のアメリカにおける大流行の原因を示唆する何かがあるように感じる」と意見を述べられた。いわく「最近のアイオワ州の液卵農場には農外資本が急速に流れ込んでいく。こうした農外資本者は、農業の何たるかという基本を知ら

ない。コスト優先でヒスパニック等の安い労働力を使うことが、バイオセキュリティの穴を作っているのではないか：」

オーナーまたは経営のトップ陣がいかに完璧なシステムを構築しても、それを守るかどうかは働くスタッフの意識次第である。家族経営であれば、自分と身の周りに注意を払えば規律は守れるだろうが、一〇〇人や二〇〇人といった大人数であれば中に不心得な者も混じる。まして密入国の非合法労働者であれば、英語が通じるか自身が問題である。バイオセキュリティシステムを墨守するかどうかはわかったものではあるまい。 アニマルウェルフェアの規律で生産羽数が制限され、高水準な卵価に引き寄せられた農外資本が生き物の特殊性故に苦悩するのは、仕方ない流れかもしれないが、それに業界が振り回されるようになれば二重の苦しみといえよう。アメリカを他山の石に、日本の養鶏産業は禪を締め直す必要があると実感した。